

かかし  
案山子

池松 孝子

「案山子」は、元は中国の僧侶が用いた言葉で、「案山」は山の中でも低い平らな所を意味し「子」は人形や人間のことを意味したという。田畑にある人形をさしたものだ。稲などの実った時期に田で人が農作業をしていると、鳥、害獣が近づかなかったことから、作物を荒らす鳥などを追いやるためのものであった。

また「かかし」の語源は「嗅<sup>かがし</sup>がし」ではないかと言う説になるほどと納得した。その昔、匂いの強い臭い鳥獣の肉や髪の毛、あるいは魚の頭などを焼いて、藁<sup>わら</sup>や竹で造った人形を、地に立てた案山子に刺したのが始まりだったらしい。これが本来の案山子の形であつたろうといわれている。

あの学習能力の高いとされる鴉<sup>からす</sup>などを相手にしなければなくなると、次第にさらなる工夫が必要となった。最近ではきらきら光らせる材料を使ったり、動きのあるものになったり、それも同じ動作を繰り返すのでなく、不規則な動作をするなどして鳥獣と戦うような案山子も出ている。私が子供の頃見た案山子の中にも、鴉の死体をぶら下げた物、すごい爆音を仕掛けて威嚇するものがあつた。人と鴉、害獣との限らない戦いが繰り返されているのだ。視覚、聴覚、嗅覚に訴えるなどしても、相手が「あれは無害なものだ」と察知すればこちらの負けとなる。

案山子のコンテスト、「かかし祭り」が日本全国で行われている。岡山では吉備中央町、福岡県久留米市の「かかし祭り」などを見たことがある。8月下旬から9月にかけてだった。時代を反映したコミカルな作品が多く、大いに楽しんだものだ。

すずめ追うよりも人寄せ期待され 案山子は田舎の観光資源

前田 一揆

農閑期になると、田畑から案山子を引き上げ、庭に立て蓑傘<sup>みのかさ</sup>をかぶせ、餅を供えて供養する。

この時期、口ずさむのは下校時に歌った小学唱歌。

山田の中の一本足のかかし 天気の良いのに蓑傘さして 朝から晩まで  
ただ立ち通し 歩けないのか山田のかかし